

# 吹奏太郎



Sakura



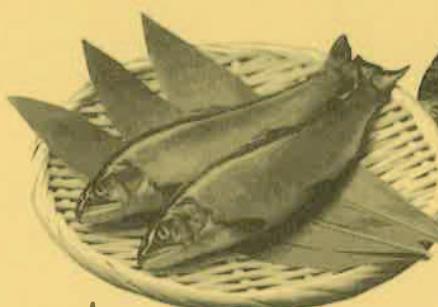
Sekirei



Sakura



Kitsuregawa  
Onsen



Ayu



Kanko Yana



## 目 次

★卷頭言 ..... 2

「久しぶりに吹奏楽の世界に戻ってまいりました」

栃木県吹奏楽連盟副理事長 小川 光正

★1 第64回 栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想 ..... 3

高等学校の部 D 部門 宇都宮文星女子高等学校 部長 村上 夢結

★2 第28回 東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想 ..... 4

中学校の部 B 部門 真岡市立真岡西中学校 部長 種倉 芽依

中学校の部 A 部門 那須塩原市立西那須野中学校 部長 中山 美優

高等学校の部 A 部門 栃木県立石橋高等学校 部長 斎藤 朝香

職場・一般の部 小山市交響吹奏楽団 団長 田中 博幸

補助員としての活動 宇都宮市立宮の原中学校 部長 小野寺ふうか

副部長 鶴見 咲奈

★3 東関東マーチングコンテストに参加しての感想 ..... 7

青藍泰斗高等学校 部長 小倉 羽音

★編集後記 ..... 8

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

# 「久しぶりに吹奏楽の世界に戻ってまいりました！」

栃木県吹奏楽連盟副理事長 小川光正

私には教員になつたらぜひ吹奏楽部を担当したいという強い希望がありましたが、いろいろな事情から3校目の学校で初めて顧問となることができました。子どもたちと一緒に音楽を作っていくってすごく楽しいなど、毎日が充実していました。その中学校は、全校で五百数十人ほどの学校でしたが、最も部員がたくさんいたときには50人を超える大所帯で、つまりその学校の10人に1人は吹奏楽部員という、なんともありがたいものでした。しかも、その学校は伝統的に男子部員が多く、私がいた8年間は毎年部員の3分の1から半分くらいは男子部員が占め、「男子部員の数で勝負だったら、関東で金だね。」といつも言い合っていたものです。次に異動した中学校には5年しか在籍せず、それ以来吹奏楽からは離れてしまいました。吹奏楽界の動向は気にはなりつつ、日ごろの仕事の忙しさにまけて、その確認もしないまま20年が過ぎましたが、一昨年、当時の石塚理事長から声をかけていただき、表題のような結果に相成ったわけです。

さて、自己紹介はこれくらいにして、久しぶりに吹奏楽界に戻ってきた感想を述べてみます。

20年ぶりくらいにコンクールでの皆さんのお話を聞いて、まず驚いたのは、著しい技術の向上でした。それは、小・中・高を問わずに！です。小学生でも大人顔負けの音を出す子もいる！

そして次に驚いたのが、多くの学校で邦人作品を演奏していること。私が中学校で吹奏楽部に入ったころ、そして自分が顧問になったころは、ほとんどが外国の作曲家による楽曲、あるいはクラシックの管弦楽の編曲版などの演奏でした。吹奏楽のオリジナル曲の人気作曲家だったのは、A・リード、J・スウェアリンジェン、R・シェルトン、P・スパーク、ヤン・ヴァン=デル=ロースト、ヨハン・デ・メイなどだったかな？邦人作曲家としては、兼田敏、保科洋、石井歓、大栗裕といったところでしょうか。（なぜか、みんな名前が漢字一文字！）

私が中学生になる少し前までは、課題曲でさえ外国人作曲家に委嘱していました。（特にA・リードが多かつたようです。）それが今では邦人作品演奏のなんと多いことか。今年度夏の栃木県コンクール（小・中・高・大学・一般）での邦人作品は、出場全157団体のうち109団体（69.4%）で取り上げられています。

私は中学生のころから、「我々は日本人なのだから、日本人による日本に合った作品をもっとたくさん作曲・演奏できないものか」とずっと思っていましたが、今やそれが現実のものとなっています。そして特筆すべきは（自分で勝手にそう思っているだけですが）、西村朗や三善晃など（なんと、これまた名前は漢字一文字！）、これまで管弦楽の現代作曲家あるいは合唱曲の作曲家と思われていた方々が（これも自分で勝手に思っているだけかもしれません）吹奏楽のためのオリジナル曲を発表し始まったことです。彼らの曲を演奏する団体も増えつつあります。

いずれにしても、自分の解釈・指揮者の解釈など、楽曲を見たときの解釈の違いは多少あるかもしれません、私たち演奏者がまずは楽曲に書かれていることを忠実に再現（演奏）することによって作曲家の表現したいことがあらわになり、聴いている聴衆に深い感動を与えるのではないでしょうか。そんな演奏は我々アマチュア（自分もまだ現役の演奏者なので自分も含めて）にはなかなか無理なことかもしれません、少なくともそこを目指して演奏できたらいいなと思う今日この頃です。

# 1 第64回 栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和4年7月29日(金)・30日(土) 中学校の部 B 部門

7月31日(日) 小学生の部 大学の部 職場・一般の部

8月 4日(木) 中学校の部 B 部門代表選考会 高等学校の部 A 部門

8月 5日(金) 中学校の部 A 部門

8月 6日(土) 高等学校の部 C、D、B 部門

会場：宇都宮市文化会館

吹奏楽活動の課題は団体により様々ですが、それぞれに応じた工夫を凝らして活動しています。

宇都宮文星女子高等学校と文星芸術大学附属高等学校は D 部門に出場しました。2校のコンクールに向けた取り組みや活動への思いを紹介します。

## 「吹奏楽を通して学んだこと」

宇都宮文星女子高等学校 文星芸術大学附属高等学校

部長 3年 村上 夢結（宇都宮文星女子高等学校）

この度の栃木県吹奏楽コンクールで、私たちは14名という少人数ですが金賞をいただくことができました。文星ジョイントバンドとして2校合同で活動を始めてから初の快挙です。

私は、高校生から吹奏楽部に入部しフルートを始めました。新型コロナウイルス感染症のため2か月間の休校から高校生活がスタートし、ほぼ全ての学校行事やイベントが行われなかつたため不安も大きかったです。練習していくうちに少しずつ音が出るようになり、11月に行われた校内文化発表会で演奏できたことで達成感を味わうことができました。

2年生から副部長として部活の運営にかかわるようになりました。現在は部長として部員を統括する責任者として活動しています。14名しかいない部員ですが、それぞれの意見を聞いて全員が納得した形で練習を進めることは、とても大変な作業でした。特にコンクールが近づいてくると、一人ひとりの部員の考えを理解しながら自分の思いを伝えることが難しく、何度も部活の雰囲気が悪くなりました。それが演奏や行動にも悪影響を及ぼし、顧問の先生からコンクールで演奏する意味を皆で考えるよう指摘されました。すぐに話し合いを行い、全員が練習に対する考え方や音楽に対する思いを述べ、お互いを理解した上で練習方法を考えました。大変でしたが、全員が逃げずに向き合えたことが今回の金賞という結果に繋がったのだと思います。

1月に行われる文星ジョイントコンサートが私にとって最後のステージになりますが、辛かったことも楽しかったことも吹奏楽部での活動を通して学んだことは、何一つ無駄にはならないと考えています。3年間一緒に音楽を創り上げてきた同級生、私たちについてくれた後輩たち、たくさん相談に乗ってくださり音楽を通して人としての在り方を教えてくださった顧問の先生方、そして吹奏楽部に入部した私を支えてくれた家族に感謝して、今後の生活に生かしていきたいです。



## 2 東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

### 第28回 東関東吹奏楽コンクール

令和4年 9月 3日(土)・ 4日(日) 高等学校の部 A 部門 中学校の部 A 部門

会場：宇都宮市文化会館

9月10日(土)・ 11日(日) 高等学校の部 B 部門 小学生の部

会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館

9月17日(土)・ 18日(日) 中学校の部 B 部門 職場・一般の部 大学の部

会場：千葉県文化会館

### 「学校創立初の東関東吹奏楽コンクール出場」

真岡市立真岡西中学校吹奏楽部 部長 3年 種倉 芽依

私たち真岡西中学校吹奏楽部は、コンクールでの東関東大会出場を目標に日々練習に励んできました。今年度は、例年に比べて3年生の人数が少なく、部をまとめていくことが大変な時期もありました。しかし、昨年度は予選で金賞を受賞するも代表選考会には出場できなかつたため、その悔しさをばねに3年生で力を合わせ、自分たちができるよりよい演奏を追求し練習を重ねました。迎えた県大会予選では全力を出し切り、昨年度果たせなかつた代表選考会出場となりました。予選から代表選考会までは期間が短く、その中でできることを精一杯頑張りました。代表選考会では県代表に選ばれ、東関東大会出場が決まったときは本当にうれしかつたです。本校にとって学校創立以来初めてのことだったので、先生方から祝福のお言葉をたくさんいただきました。

千葉県が会場である東関東大会に向か、万全の状態で臨むために前日から千葉県に入り宿泊をしました。それも良い思い出になりました。大会前日は放課後に練習をしてからの出発だったにも関わらず、多くの先生方に見送っていました。大会当日は、楽しく演奏しようと思う反面、栃木県代表を背負ってきていることもあり、とても緊張しました。リハーサルを終えて舞台袖に移動すると、前の団体の迫力ある演奏が鳴り響き、少し不安になりました。しかし、私たちらしい良い演奏をすることを心に刻み、ステージに上がりました。これまで練習してきた成果を発揮し、悔いのない演奏をすることができました。待ちに待った表彰式。久しぶりに会場で行われたため、空気感に圧倒されました。結果は銀賞でしたが、悔いはありませんでした。この舞台で全てを出し切って演奏できたので、達成感がこみ上げてきました。このような貴重な経験をすることができ、いろいろなことを学びました。先生方や保護者の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも音楽に打ち込んで頑張っていきたいです。



## 「一音同心 東関東大会に出場して」

那須塩原市立西那須野中学校吹奏楽部 部長 3年 中山 美優

私たち西那須野中学校吹奏楽部は、6年ぶりに東関東吹奏楽コンクールをいう舞台に立つことができました。大会となれば勝敗はつきもので、結果は銅賞でした。しかし、私は、結果以上に多くのものを得ることができたと感じています。大きく分けて二つ、「経験」と「仲間の大切さ」ということです。

「経験」 私たちは悔し涙を流して帰ってきました。他県の強豪校の演奏を聴いて、圧倒され、実力の差を見せつけられたからだと思います。同じ中学生でもこれだけ違う演奏ができるのかと驚くばかりでした。ですが、その悔し涙も圧倒された自分も、舞台に立ったからこそその経験です。目標を達成できなかったことを悔やむより、この貴重な経験を活かして、これからもっと成長できるようにしたいです。

「仲間の大切さ」何かと聞くこのフレーズを、私はこのとき身にしみて感じました。大会の日を迎えるまでにたくさんの苦労がありました。学年、パート内での対立や、自分自身の技術面など、部内の雰囲気がまとまらず悩む時期も部員1人1人にはありました。それでも、問題から逃げずお互いに言葉を交わし、一つになることができました。その証拠として、悔し涙を流した後、皆が笑顔で「みんなと演奏できて楽しかった。」「これからも頑張ろう」と励まし合っていました。私は、こんな仲間と東関東大会という舞台に立つことができて幸せだなと思いました。楽しい、悔しいといった感情も、先生を初めとする仲間、ライバルがいなくては感じられません。改めて「仲間の大切さ」を知った「経験」となりました。

私たちは、東関東大会に出場できたことを誇り、前進するとともに、たくさんのこととを学えてくれた様々な人に感謝しなければいけません。その感謝の気持ちを、これからのおに込めて恩返ししていきたいなと思います。

## 「結束～Be the One!」

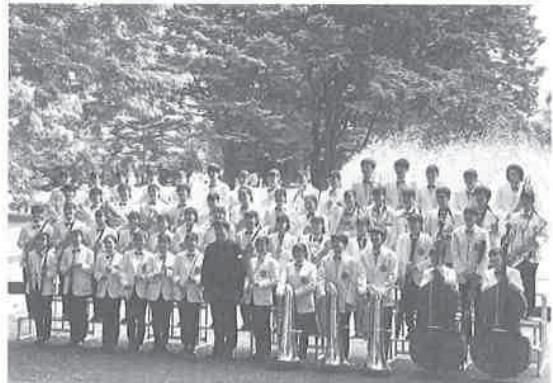
栃木県立石橋高等学校吹奏楽部 部長 3年 斎藤 朝香

音楽室でスマートフォンを覗き込み、悔しい結果に涙をのんだあの日から1年。今年の音楽室には歓声が響き渡った。目標であった東関東大会への出場が叶い、喜びと安堵に包まれた瞬間だった。

この1年、たくさんの困難にぶつかった。新型コロナウイルスの影響で、3月に予定されていた定期演奏会は5月に延期となった。コンクールの本格的な練習のスタートが遅れたことや、新たな顧問の先生を迎えたこと、自由曲の変更など、不安は山積みだった。それでも、3年生を中心に意見を交換しながら、全員で同じ方向を向いて歩き始めた。

私たちは、顧問の菊川先生のご指導のもと、改めて自分たちの音を見つめ直し、「いい音」を目指して練習を重ねた。部員同士で互いの音を聴きながら、アドバイスをして高めあう姿もあった。そのような充実した時間はあつという間に過ぎていった。

東関東大会は、部員全員が初めて立つ舞台であり、多くの強豪校に圧倒されたが、チューニング室で音合わせが始まると、いつものようにリラックスした良い雰囲気が戻ってきた。そして、全員が心から音楽を楽しみ、



私たちにしかできない演奏を届けることができたと思う。仲間と音楽を奏でられる喜びに胸がいっぱいになった。本番後、部員たちが口を揃えて言った「楽しかった」の言葉に、部長としての喜びをかみ締めた。ご指導下さった先生方、いつも見守り支えてくれた保護者の方々、最後まで頑張ってくれた部員達に心から感謝したい。

これまで、部員の思いがバラバラになったことも、音が全く揃わないこともあった。それでも諦めずに練習に取り組み、この夏、全員の思いはひとつになり、最高の音楽をつくりあげられた。コンクールに向けて全力で過ごしてきた日々、そこに懸けてきた想いは、紛れもない私たちの「ブルー・スプリング」だ。

## 「東関東吹奏楽コンクールに参加して」

小山市交響吹奏楽団 団長 田口 博幸

去る9月18日、千葉県文化会館にて行われた東関東吹奏楽コンクール職場・一般の部に参加して参りました。このステージに立たせていただいたことに感謝申し上げます。長引くコロナ禍という状況の中での開催となりましたが、今年は感染防止対策をした上での有観客の開催となったことに心からほっとしています。

私たちの出演順は20団体中の19番目。行動する上・ありがとうございました。当日は地元のホールで音出しをしてから千葉に向けて出発しました。交通渋滞もなくスムースに到着しましたが、現地は台風14号の影響もあって大雨。搬入や移動には大変な苦労をしました。運営された連盟の皆様も大変だったことと思います。そんな中でしたが、私たちが今持っている力で精一杯楽しく演奏が出来たと思います。東関東の一般の部は大変レベルが高く、私たちは胸を借りるつもりで演奏させていただき、とてもよい刺激を受けました。

コンクールは私たち一般バンドにとってもありがたい行事です。私たちの大切な活動として、演奏を通じての地域貢献（イベントや依頼・訪問演奏など）を行っていますが、少しでも質の高いものを提供しなければならないと考えています。コンクールは、目標をもってそれを目指すことで自分たちの進歩を実感することが出来、レベルの維持向上につながります。また、学生時代に味わったあの独特の雰囲気を大人になっても味わえるのはとても幸せなことです。

今回、東関東吹奏楽コンクールのステージに立たせていただき、そしてベストを尽くせたことは私たちの財産となりました。結果は「銅賞」と決して誇れるものではありませんでしたが、現状を受け入れ何が必要なのかを考える機会になりました。これからも吹奏楽で楽しく集える一般バンドでありたいと思います。

一人でも多くの学生さんが、卒業後も吹奏楽を続けていただければと思います。当団でも、新しいメンバーをいつでもお待ちしています。



## 「東関東大会の補助員をやってみて」

宇都宮市立宮の原中学校吹奏楽部 部長 3年 小野寺 ふうか

副部長 3年 鶴見 咲奈

今回、東関東吹奏楽コンクールの補助員を体験させていただいたことは、私達にとって貴重な経験となりま

した。私達が体験した仕事の内容は、主に出演者の誘導、会場のドアの開閉、手指のアルコール消毒です。出演者の誘導では、小ホール、チューニング室での演奏を聞くことができ、それぞれの団体の工夫を感じることができました。会場についてから、本番、写真撮影まで一緒に立ち会い、誘導する側も程よい緊張感に包まれました。印象的だったのが、本番前に部のスローガンや意気込みを全員で言っていたことです。それぞれの団体の個性に触れることができました。会場のドアの開閉では、演奏を間近で聞くことができました。全団体が堂々と演奏していて、全てが印象的で前向きな演奏でした。一人ひとりが心から楽しんで吹いていて、演奏を聞いている私達も、心から楽しむことができ、とても素敵な時間を過ごすことができました。各団体の素敵な演奏から、私達の課題、改善点を見つけることができ、よい機会となりました。演奏に限らず、移動、楽器の搬入などの行動面でも、動きに無駄が無く、参考となる部分が多くありました。

初めての東関東大会の補助員ということもあり、任された仕事をしっかりとこなせるか、と不安だった部分も多くありました。出演者および関係者の皆様が笑顔で挨拶をしてくださったり、丁寧に仕事を教えてくださったりしたおかげで、不安がなくなり、それぞれの任務を全うすることができました。いつも私達が出演する側でしたが、実際に補助員をさせていただき、裏ではたくさん的人が関わっていて、本番が上手くいくように支えてくださっていることを改めて実感しました。日々支えてくださっている方々に感謝の気持ちを持ちました。今回の経験で学んだことを今後の活動に生かしていきます。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

### 3 第28回 東関東マーチングコンテストに参加しての感想

#### 第28回 東関東マーチングコンテスト・第21回小学生バンドフェスティバル

令和4年10月2日(日) 会場：千葉ポートアリーナ

#### 「東関東マーチングコンテストに出場して」

青藍泰斗高等学校吹奏楽部 部長 3年 小倉 羽音

私たち青藍泰斗高校吹奏楽部は、昨年・一昨年に比べ人数も少なく技術も低く、一から練習を始めやっと東関東マーチングコンテスト出場まで来ることができました。コロナの流行に伴い、体調が悪ければ休むなど集まることが難しく、部員全員が揃うということは少なかったです。ですが、その様な状況でもできる限りのことは精一杯練習してきました。部員が一部欠けながらの練習はとても大変でした。いる人はいる

人なりの練習、いない人はいない人なりの練習をし、少しづつ完成に近づいていきました。毎日練習を繰り返しやり続けると必ず成果は出ます。前にはできなかつたことがいつの間にかできるようになり、練習の成果が少しづつ現れ、それに気づくことも楽しくなり、もっと頑張ろうと思い更に練習を重ねてきました。今のメンバーで練習し始めた4月の私たちに比べると、はるかに部員全員が成長してきたなと思います。演奏の技術面だけでなく、パートごとのチームワークが築かれていき、毎日苦戦しながらも協力しながら練習に励む事ができました。昨年の東関東大会は無観客で、演奏が終わった後も正直寂しい思いをしましたが、今回は久しぶりに大きな



会場でたくさんのお客様に拍手を頂けたことが何より嬉しかったです。結果は銅賞で必ずしも満足できるものではありませんでしたが、審査員の先生方の温かい講評はとても励みになりました。今後の糧にしたいと思います。

今回東関東大会に出場して、改めてお客様に拍手を頂けることのありがたさを感じる事ができました。また、練習を続けていく中で、音楽を作り上げて行くためには一人一人の協力でチームワークを築いていくことがとても大切なのだということに気がつきました。

私たち3年生は3月の定期演奏会まで引退しません。高校生活最後のステージまで成長期し続けられる様にこれからもチームワークを大切にしてがんばっていきたいと思います。

## 編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

～やっと通常開催ができた～

多くの方がそう思ったことでしょう。ごく少数の限られた観客の前で演奏するのと多くの観客を前に演奏するのでは、出演者にとって大きな違いです。もちろん感染防止対策には関係者全員が本当に気を遣いました。「最悪を想定して準備する」ことは、とても大切です。感染防止への全員の努力のおかげで、県のコンクール・マーチングコンテスト・小学生バンドフェスティバル、東関東のコンクールと無事に実施できました。出演者と運営に関わった人たち全員に、心の中でお互いに「ありがとう」の拍手を送り合いましょう。とは言え、諸事情が整わず大会参加を断念せざるを得なかった団体があったことは本当に残念です。アンサンブルコンテスト、そして来年のコンクールは希望する全ての団体が参加できる状況になって欲しいものです。

ところで、東関東のコンクール高校A部門の時に、中学生が補助員をしていたことをご存知でしょうか?県内の出場団体と国体関係行事の日程上、初めて中学生が東関東の大会補助員として活動しました。相手は高校生でその殆どが初対面の団体。緊張しながらも一生懸命に活動してくれました。大変だったけれど実りある経験になったようです。実行委員や高校生を中心とした補助員の皆さんも、裏方の経験が新しい発見や学びに繋がっているのではないかと思います。その人たちの活動があってこそ、行事や各大会が運営できるわけです。

加盟団体の中には、コンクール等には出場しないが支部の行事は参加し、小学生から大人まで一緒に演奏している団体もあります。団体の置かれた現状によって活動の仕方は様々です。大会至上主義ではなく、「吹奏楽の活動を通して社会に貢献できる人を育てていく連盟」を常に念頭に置きたいのです。目指すところに向かうルートは多種多様で、しかも正解も不正解も無い。何故なら、大会を通じ技術を磨くことも、音と触れ合い音を楽しむことも、音楽に聴き入ることも全て吹奏楽を音楽を通した活動なのですから。情報収集不足でなかなか発信できていませんが、各地区(支部)の情報など幅広く掲載していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

令和4年度1号発行にあたり、お忙しいなか原稿をお寄せくださった方々に深く感謝いたします。ありがとうございます。

《お願い》 原稿の執筆依頼が届きましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。

各支部や団体の活動に関する情報をお待ちしています。また、「吹奏太郎」への要望・意見・感想なども気軽にお寄せください。